

令和元年 11 月 11 日

市政記者各位

## 平和祈念展 in 福岡 —みらいへ伝える体験者の記憶—

平和祈念展示資料館(東京・新宿区)は、さきの大戦における兵士、戦後強制抑留者、海外からの引き揚げ者の労苦を多くの人たちに知って頂くため、全国各地で展示会を開催しており、このたび、日本最大級の引き揚げ港である博多港を有する福岡市において、下記のとおり開催することとなりました。

つきましては、取材および広報にご協力いただきますようお願いいたします。詳細は添付しております平和祈念展示資料館の資料およびチラシをご覧ください。

### 記

#### 【開催概要】

- (1) 開催期間: 令和元年 11 月 21 日(木)～令和元年 11 月 26 日(火)
- (2) 開催時間: 9 時 30 分～18 時まで ※22 日(金)、23 日(土・祝)は 20 時まで
- (3) 開催場所: 福岡アジア美術館 交流ギャラリー(リバレインセンタービル 8 階)
- (4) 入 場 料: 無料
- (5) 主 催: 平和祈念展示資料館(総務省委託)
- (6) 共 催: 福岡市
- (7) 後 援: 福岡県、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、西日本新聞社

#### 【ギャラリートーク】 令和元年 11 月 21 日(木) 14 時～(約 40 分)

平和祈念展示資料館の学芸員による展示解説を行います。

展示会場にお集まりください。事前申込は不要です。

また、この平和祈念展とは別に、福岡市では市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)1 階ホール横ホワイエ(中央区荒戸 3 丁目 3 番 39 号)において、戦後博多港が引揚援護港として果たした歴史的役割や戦争の悲惨さを後世に伝え、平和の願いを新たにするため、平成 23 年から資料展「引揚港・博多」を常設しています。この機会にぜひこちらもご覧ください。

#### 資料展「引揚港・博多」 ～苦難と平和への願い～

昭和 20(1945)年の終戦直後、博多港は日本最大級の引揚援護港であり、日本人引揚者約 139 万人を受け入れ、朝鮮半島や中国の人々約 50 万人を故国へ送り出しました。博多港に引き揚げてきた方々から寄贈された、貴重な資料の数々。苦難の道のりと平和を願う気持ちを、現代に生きる私たちに伝えてくれます。

【問合せ先】 保健福祉局総務企画部総務課 担当: 太田、山口

TEL: 711-4493(内線 2024) FAX: 733-5587

# 平和祈念展 in 福岡

## みらいへ伝える体験者の記憶

平和祈念展示資料館（東京・西新宿）は、さきの大戦における、兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦を広く知ってもらうための施設です。また、より多くの人たちに体験者の労苦を伝えるため、全国で展示会を開催しています。

平和祈念展 in 福岡では、兵役に関する公文書や装備品、シベリア抑留者の収容所での過酷な体験を物語る衣服や書簡、引揚げ時の混乱を示す書類や引揚者の持ち物など、当資料館が所蔵する代表的な資料を展示します。

併せて、特別展示として共催の福岡市が所蔵する、引揚港・博多に関する貴重な実物資料を展示し、さまざまな視点から体験者の記憶をたどります。



シベリア抑留者が飢えに耐えかね、袖の部分をパンと交換した防寒外套  
(平和祈念展示資料館所蔵)



満州から引き揚げる途中、母親が娘に着せるため、亡くなった赤ん坊のおむつで作ったワンピース  
(平和祈念展示資料館所蔵)



博多引揚援護局が発行した引揚証明書  
(福岡市所蔵)

### 《《《 開催情報 》》》

開催日時：令和元年 11 月 21 日（木）～11 月 26 日（火） 9:30～18:00

※22 日（金）、23 日（土・祝）は 20:00 まで

会 場：福岡アジア美術館 8F 交流ギャラリー

（福岡県福岡市博多区下川端町 3-1 リバレインセンタービル）

入 場 料：無 料

主 催：平和祈念展示資料館（総務省委託）

共 催：福岡市

後 援：福岡県、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、西日本新聞社

お問い合わせ | 平和祈念展示資料館 <https://www.heiwakinen.go.jp>  
TEL：03-5323-8709 / FAX：03-5323-8714  
〒163-0233 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル 33 階  
担当：熊倉、伴野

【展示会内容】※予定

■平和祈念展示資料館の資料展示



\*兵士コーナー

さきの大戦において、国のために家族を残し、危険な戦地に向かい、命をかけて戦務に従事し、大変な労苦を体験された方々について紹介します。

	
<p>臨時召集令状（平和祈念展示資料館所蔵）</p>	<p>千人針（平和祈念展示資料館所蔵）</p>


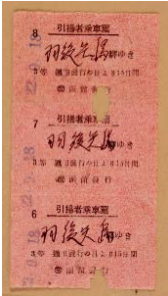
\*戦後強制抑留コーナー

戦争が終結したにもかかわらず、シベリアを始めとする旧ソ連やモンゴルの酷寒の地において、乏しい食糧と劣悪な生活環境の中で過酷な強制労働に従事させられた方々について紹介します。

	
<p>俘虜用郵便葉書（平和祈念展示資料館所蔵）</p>	<p>手製の食器類（平和祈念展示資料館所蔵）</p>

\*海外からの引揚げコーナー


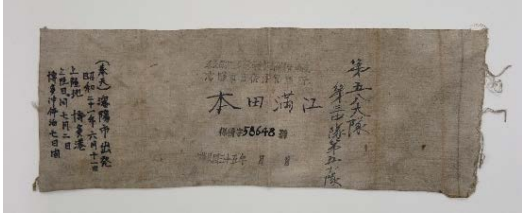



敗戦によって外地での生活のよりどころを失い、身に危険が迫る過酷な状況の中をくぐり抜けて、祖国に戻ってこられた方々について紹介します。

	
<p>收容日誌（平和祈念展示資料館所蔵）</p>	<p>引揚者乗車票（平和祈念展示資料館所蔵）</p>

■福岡市の資料展示

\*特別展示「引揚港・博多」

終戦直後、博多港は日本最大級の引揚港として、多くの人々を受け入れました。引揚者が持ち帰った物や引揚援護に関する資料を通して、引揚港・博多の歴史を伝えます。

	
<p>柳行李（福岡市所蔵）</p>	<p>引揚者腕章（福岡市所蔵）</p>
	
<p>衣料切符（福岡市所蔵）</p>	<p>毛布（福岡市所蔵）</p>
	
<p>博多埠頭内宿泊所で荷物の整理を行う満州からの引揚者 （米国立公文書館資料）</p>	<p>博多埠頭内の光景 羽釜を囲んで（米国立公文書館資料）</p>

■関連イベント

\*ギャラリートーク

平和祈念展示資料館の学芸員による展示解説を行います。

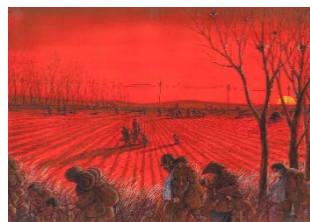
日時：11月21日（木）14:00から [約40分] ※事前申込不要

\*ワークショップ

満州からの引揚者が見た赤い夕日をイメージしながら、ビー玉で万華鏡をつくります。

日時：11月24日（日）9:30～16:30

※先着200名



「赤い夕陽のなかをひたすら歩く」  
ちばてつや画

平和祈念展示資料館（総務省委託）  
〒163-0233 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル 33階  
TEL:03-5323-8709 <https://www.heiwakinen.go.jp>

# 平和祈念展

in福岡

主催：平和祈念展示資料館（総務省委託） 共催：福岡市  
 後援：福岡県、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、西日本新聞社

みらいへ伝える体験者の記憶



シベリア抑留者が飢えに耐えかね、袖の部分をハンと交換した防寒外套（平和祈念展示資料館所蔵）

戦争が  
 終わってからも、  
 苦しくつらい  
 体験をした方々に  
 関係する資料の  
 展示を通して、  
 忘れては  
 いけない記憶を  
 次の世代に  
 つなぎます。



博多引揚接護局が発行した引揚証明書（福岡市所蔵）

## ギャラリートーク

平和祈念展示資料館の学芸員による展示解説を行います。参加者には記念品を進呈します。  
 11月21日 日 14:00 から（約40分）※事前申込不要

## ワークショップ

満州からの引揚者が見た赤い夕日をイメージしながら、ビー玉で万華鏡をつくります。  
 11月24日 日 9:30～16:30 ※先着200名（お1人様1個）まで

会場



福岡アジア美術館  
 Fukuoka Asian Art Museum

交流ギャラリー 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル

令和元年

11/21 木 ▶ 11/26 火

9:30-18:00 ※22日 日、23日 土祝は20:00まで

入場無料



「国境を越えシベリアへ」早田貫一画（平和祈念展示資料館所蔵）

「收容所の冬景色」佐藤清画（平和祈念展示資料館所蔵）

博多埠頭に着いた満州からの引揚者（米国立公文書館資料）

DDT 消毒を受ける引揚者（米国立公文書館資料）

# 平和祈念展

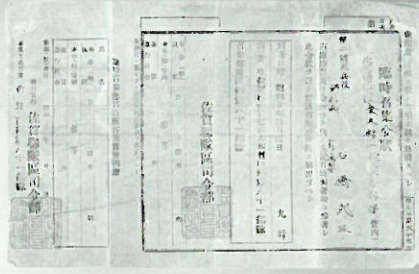
in福岡  
みらいへ伝える体験者の記憶

入場無料

平和祈念展示資料館（東京・西新宿）では、さきの大戦における兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦を多くの人たちに知ってもらうため、全国各地で展示会を開催しています。  
「平和祈念展 in福岡」では、当資料館が所蔵する代表的な資料のほか、共催の福岡市が所蔵する引揚港・博多に関する実物資料を展示し、さまざまな視点から体験者の労苦を伝えます。

## 兵士

さきの大戦において、国のために家族を残し、危険な戦地に向かい、命をかけて戦務に従事し、大変な労苦を体験された方々について紹介します。



戦争で多くの兵士が必要になり、徴兵検査に合格した男性に出された臨時召集令状（赤紙）  
〈平和祈念展示資料館所蔵〉

## 戦後強制抑留者

戦争が終結したにもかかわらず、シベリアを始めとする旧ソ連やモンゴルの酷寒の地において、乏しい食糧と劣悪な生活環境の中で過酷な強制労働に従事させられた方々について紹介します。



収容所で、抑留者が白樺の木を削って作った食器  
〈平和祈念展示資料館所蔵〉

## 海外からの引揚者

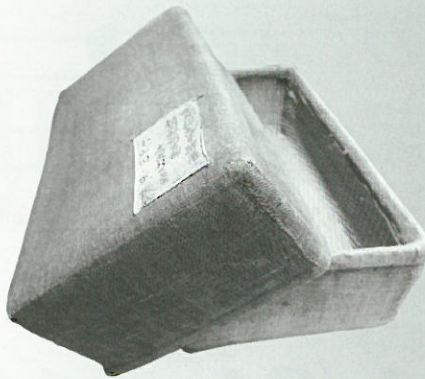
敗戦によって外地での生活のよりどころを失い、身に危険が迫る過酷な状況の中をくぐり抜けて、祖国に戻ってこられた方々について紹介します。



満州から引き揚げる途中、母親が娘に着せるため、亡くなった赤ん坊のおむつで作ったワンピース  
〈平和祈念展示資料館所蔵〉

## 特別展示 「引揚港・博多」

終戦直後、博多港は日本最大級の引揚港として、多くの引揚者を受け入れました。この特別展示では、博多港に引き揚げてきた人々が持ち帰った貴重な物や、引揚援護に関する資料などを紹介します。



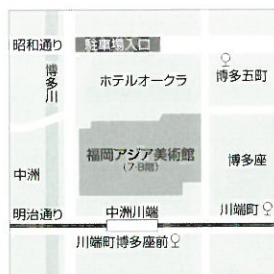
引揚者が荷物を運ぶために使った柳行李  
〈福岡市所蔵〉

## 会場



福岡アジア美術館  
Fukuoka Asian Art Museum  
交流ギャラリー（8階）

福岡市博多区下川端町3-1  
リパレインセンタービル



## 市営地下鉄

中洲川端駅 下車、6番出口より徒歩すぐ  
福岡空港から福岡空港駅より9分  
JR博多駅から博多駅より3分  
西鉄福岡駅から天神駅より1分

## 西鉄バス

川端町博多座前 バス停下車、徒歩すぐ  
太宰府方面から  
都市高速 千代ランプより車で約7分  
北九州方面から  
都市高速 呉服町ランプより車で約5分  
有料駐車場…リパレインセンタービル地下4階

**博多港引揚記念碑** 豊福 知盛氏作(那津往還)

敗戦直後の失意とその後に湧き興ってきた生への希望を永遠に記念するモニュメントとして制作しました。舟の上の本体(人間)の朱は、古代から愛されてきた色であり、那の津と呼ばれる来た博多港の希望を表現したものです。



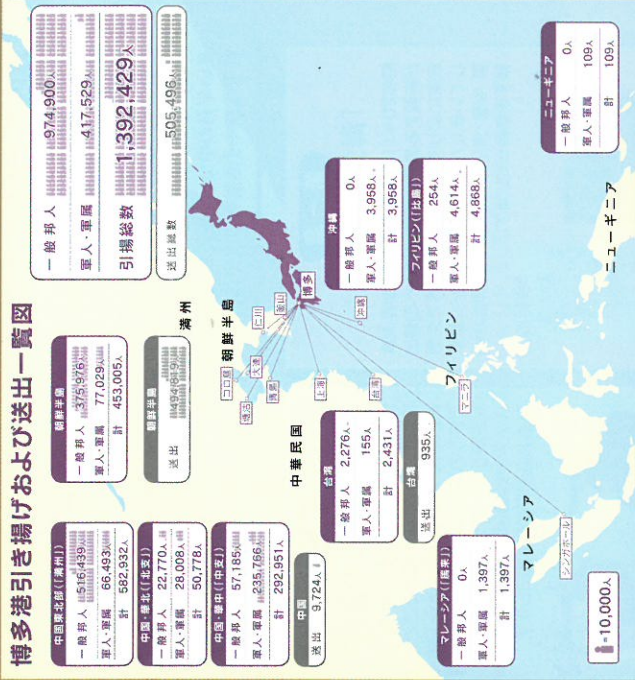
■材質/耐候性鋼  
■長さ/17m  
■高さ/15m(台座部分4mを含む)  
■竣工/平成3年3月28日  
1996年度福岡市都市景観賞受賞(D部門)



西鉄バス利用の場合 (マリメツゼ前下車徒歩すぐ)

- 天神から 80番系統 約13分
  - 博多駅から 88番系統 約18分
- お車でお越しの場合
- 福岡空港から約5.5km .....(約15分)
  - JR博多駅から約2.5km .....(約5分)
  - 福岡の都心・天神から約2km .....(約5分)

**博多港引き揚げおよび送出一覧図**



**資料展「引揚港・博多」～苦難と平和への願い～**

- ◎ 場所 / 福岡市市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)1階ホール横ホワイエ  
〒810-0062 福岡市中央区荒戸3丁目3番39号
- ◎ 開館時間 / 9:00～21:00
- ◎ 休館日 / 毎月第3火曜日(祝日の場合、翌日)
- ◎ 入館料 / 無料
- ◎ お問い合わせ先  
福岡市保健福祉局総務課  
TEL:092-711-4493  
FAX:092-733-5587

- ・ 地下鉄空港線をご利用の方  
「唐人町」駅下車  
4番出口から徒歩約7分
- ・ 西鉄バスをご利用の方  
「黒門バス停」下車  
徒歩約5分  
「福大若葉高校前」下車  
徒歩約1分



**忘れてはいけない「歴史」。**  
**あなたが知らない「記憶」。**



**資料展「引揚港・博多」**

～苦難と平和への願い～

昭和20(1945)年の終戦直後、博多港は日本最大級の引揚援護港であり、日本人引揚者約139万人を受け入れ、朝鮮半島や中国の人々約50万人を故国へ送り出しました。博多港に引き揚げてきた方々から寄贈された、貴重な資料の数々。苦難の道のと平和を願う気持ちを、現代に生きる私たちに伝えてくれます。

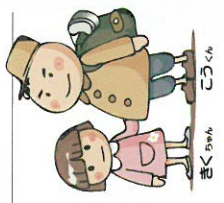
◎ 会場 / 福岡市市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)  
1階ホール横ホワイエ

◎ 開館時間 / 9:00～21:00

◎ 休館日 / 毎月第3火曜日(祝日の場合、翌日)

◎ 入館料 / 無料

◎ お問い合わせ先 / 福岡市保健福祉局総務課  
TEL:092-711-4493 FAX:092-733-5587



国内外の動き

博多引揚援護局

1945 (昭和20年)

- 8/28 (GHQ指令) 釜山-仙崎-博多間輸送の為 興茂丸、徳寿丸運行許可。
- 9/3 朝鮮半島南部引揚船隻、博多第一船(徳寿丸)入港。
- 10/13 盛岡、福岡市善吉町に九州上陸地帯支局設置。
- 10/15 (GHQ指令) 引揚援護局として博多港を本庁 門向港を指定。(博多港の引揚輸送の輸送能力 5,000人、送込2,500人)
- 10/18 博多、福岡市西中洲に引揚航空部福岡支局設置。
- 10/18 博多、博多港埠頭に陸軍船舶防務部設置。
- 11/1 厚生省博多救済所設置。
- 11/15 埠頭に福岡県臨時引揚事務所設置。
- 11/24 11/22付勅令第651号により地方引揚援護局 官制公布。福岡市に厚生省博多引揚援護局設置。
- 11/25 陸軍九州上陸地帯支局を博多上陸地帯支局と改称。
- 12/1 海軍職員取扱福岡支局を博多上陸地帯支局と改称。

1946 (昭和21年)

- 1/4 引揚援護局陸軍部事務所を福岡市天神町 若田倉庫に置く。
- 2/15 引揚援護局、全国的に統一される。
- 3/10 厚生省引揚援護局を博多へ移すため一日受け入れ 台付引揚輸送能力8,700人となる。
- 3/12 (博多引揚援護局)と改称(厚生省を除く)
- 3/15 朝鮮半島南部引揚船隻が工部局に種別番号を付与 (月夜越越)
- 3/21 総務部行善を業務部に、検疫所を中央埠頭に 近い大浜町丁目に移転。
- 4/20 本格的引揚輸送開始。指定船白龍丸、翠山丸、 北勝丸、日海丸等全部を博多に回航される。
- 5/29 博多-釜山間輸送。釜山にコレラ発生のため停止。
- 6/29 VO100号に発疹チフス発生47人。
- 7/2 大津撃収容開始。能力1,000人。
- 7/4 コロ島入港船にコレラ発生。
- 7/16 (GHQ指令) 愛入7,500名/日、送込5,000名/日、 コレラ患者111人に達する(内死24人)
- 8/2 朝鮮人送出国帰。
- 8/5 (GHQ指令) 博多港を「コレラ港」に指定
- 8/9 長春引揚船隻650人上陸。
- 9/4 博多港引揚船隻一周年表彰。同慶堂祭挙行。
- 10/30 (GHQ指令) コレラ患者乗船の日本到着船は、 浦賀、佐世保または博多港のみを使用する指令。(GHQ指令) 11月3日以降、博多引揚援護局を 無活動状態に置く指令。
- 12/11

1947 (昭和22年)

- 1/31 当日以後、当博多港埠頭無活動状態に入る。
- 2/21 (GHQ指令) 無活動状態解除の指令。
- 3/1 業務再開
- 3/27 (GHQ指令) 4/10より開港に着手し 4/30をもって業務を終了せよ。
- 4/5 引揚船隻の船「徳山丸」入港。
- 4/29 中央埠頭六号倉庫にて船隻の航行
- 4/30 博多引揚援護局閉鎖。業務終了。
- 5/1 業務整理に入る。

※ (GHQ指令)は「聯合国陸軍最高司令部本部による指令」を指す  
 ※ 「博多引揚援護局史」 埼玉県平和資料館「終戦と引揚」他より

博多港は、朝鮮半島、中国大陸に最も近い港として、太古から交流をはかってきました。一方、昭和20(1945)年の終戦直後、博多港は日本最大級の引揚援護港として、139万人の日本人引揚者を受け入れ、当時日本にいた朝鮮半島や中国の人々約50万人を故国へ送り出した海の玄関口でした。長い年月の中で、博多港は戦後の経済発展により大きく変貌し、あの悲惨な戦争体験や引き揚げの歴史は次第に風化しつつあります。

第一章 「海外での生活」

昭和20年(1945年)に第二次世界大戦が終戦するまでは、日本の海外への生活政策により多くの日本人が海外で生活していました。学校関係の資料や、被爆者・写真・生活用品などが当時の生活の様子を物語っています。



第二章 「海外からの出発」

日本の敗戦により、海外に生活していた日本人は日本に引き揚げることになりました。しかし、遠い海外から日本に戻るまでの長い道のりの中では、さまざまな苦難がありました。実際に使用したバッグや生活用品、また引揚者胸章や腕章、各種証明書類等を展示します。



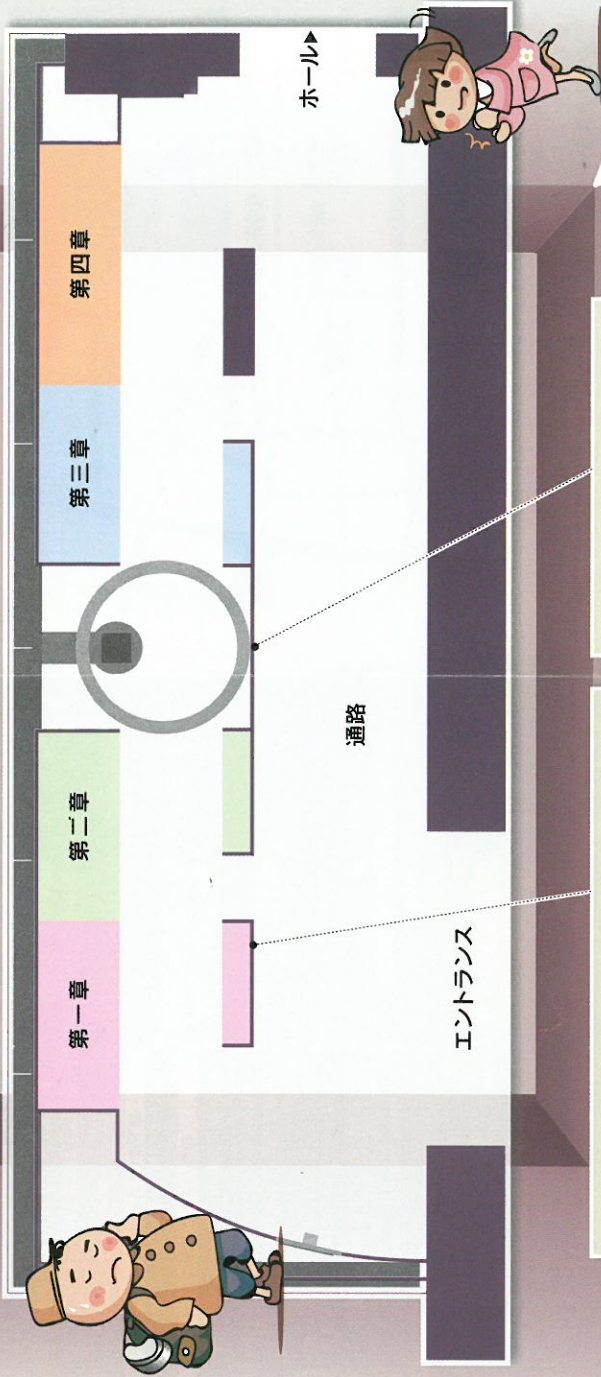
第三章 「海の玄関口・博多」

戦後、博多港には元軍人等約42万人を含む引揚者約139万人が上陸しました。また、在日外国人約50万人が博多港から相国へ帰っていききました。博多港はまさに海の玄関口でした。引揚船の模様をはじめ、引き揚げ証明書、復員証明書等の資料を展示します。



第四章 「引揚援護」

博多には引揚者のための収容所のほか、孤児施設や療養所が設けられ、様々な団体や寺院、病院が協力し献身的な活動を支えられていました。MRU(米軍政府公認、移動医療局)、聖福齋(孤児施設)関係資料等、援護活動の足跡をご紹介します。



序章 「引き揚げとは」

終戦後、中国、台湾、朝鮮半島などから多くの日本人が海外から戻ってきた「引き揚げ」。占領下の日本では、連合国総司令部の管轄のもと、引揚援護政策が行われることになり、福岡市に昭和20年(1945年)11月24日厚生省博多引揚援護局が設置され、1年5ヶ月にわたって多くの方を受け入れてきました。当時の引き揚げの様子を記録した映像フィルムもご覧ください。

豆知識 「情報コーナー」

今まで知らなかった引揚港・博多の歴史。博多港には、何人くらいの方が帰ってきたのでしょうか？また、どんな施設があるのでしょうか？わかりやすく紹介しています。

この資料展「引揚港・博多」～苦難と平和への願い～により引き揚げて来られた方々の労苦とともに、援護に力を尽くした人々の足跡、平和への願いを感じていただければと思います。博多港に引き揚げてきた方々から奇蹟があった、貴重な資料の数々をぜひご覧ください。